



自動化という新たな企業の現実が与える企業環境の完成

令和 7 年 6 月 26 日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

自動化が企業の永続する自己プレゼンスとコアコンピタンスを提供するならば、これは企業が自己の完成を得ることである。

これらは日本企業が自らの企業努力において行った過去が完成という現実において終焉するのである。

これらはビックデータの解析と分析、管理、生産と間接部門の自動化、AI におけるシステムの管理などは、効率性の追求することにおいて、利益の永続性を構築するものであり、それら企業システムの完成は、企業の開発への新規投資という基盤において、固定した企業システムが永続する利益環境の育成を実現できるためである。

それらが次世代における企業システムであり、それら飛躍的な効率性や生産性、品質の向上は、もはや既存現実を完全に否定するものなのである。

これらが今日の変化の収束点であることは一つの真実であると考える。

これらは新たな企業システムの構築への新規投資は、ROI においてペイするのである。

また他方においてこれらが飛躍的な利益性の向上を与え、その資本の灯火を新規開発において求めるとき、企業の確立するプレゼンスはもはや否定できないのである。

これら現実は今日における、ビジネストrendであり、それらが飛躍的な現実の向上を与えるものであることにおいて、それを否定できないのである。

これら企業の現実が、サーキュラエコノミーやゼロエミッション、CSR、企業の社会への新たな責任などにおいて自己を行うとき、それらは飛躍的な現実の改善や向上を企業において実現できるのである。

これら今日の時代の趨勢への一つの理解であり、企業経営における判断は新たな未来の実現を有するのである。